

特定非営利活動法人 フリースペースたまりば (認定NPO 法人)

2020 年度事業報告書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

1. 事業の成果

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、学校や公的施設が軒並み閉鎖や時短開所が求められた今年度。当法人は「子どもの最善の利益」を考え、緊急事態だからこそ支援が必要な子どもや家庭のために、居場所の継続開所の必要性を市に伝え、協議の末、夢パーク・フリースペースえんを開き続けた。その取り組みはNHK「おはよう日本」をはじめ、多くのメディアに「最後の砦」と報じられ、全国各地から賞賛や励ましの声をいただいた。また、この非常事態の中で、感染拡大防止のために何が必要かを考える話し合いに、子どもたちやスタッフ間で多くの時間を費やした。その結果、子どもたちが居場所を守るために自分たちでできることを考え、協力して実行することを通じて、居場所の運営に主体的に「子どもの参加」を推し進めることができた。またスタッフは自分たちの仕事は何を大切にしているのか、その根っこの思いを紡ぎ合わせる対話を通じて、子どもの居場所を守り・つくりつづけるための理念の共有を図ることができた。この数十時間におよぶ話し合いの様子は、ボランティアのプロカメラマンによって、その動画が記録保存されている。

さらに家から出づらくなった子どもや保護者のために、オンラインで繋がる取り組みをはじめ、講座やミーティング、親の会などをリアルタイムで結ぶ「えんらいん」を開設した。各家庭をつなぐだけでなく、世界各地をオンラインでつないで、いま同じ地球で生きている人々のリアルな暮らしぶりに子どもたちが出会う企画も、新しく講座の中で実現した。

川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」も、生活困窮家庭の若者のために、コロナ禍でも開所を続けたが、各地区の福祉事務所のケースワーカーから寄せられた要望をもとに、川崎市と協議を重ね、次年度から対象年齢を 39 歳まで引き上げ、生活保護を受給していない人も参加ができるように、一部間口を広げる方向で事業拡大と予算の増額が決まった。これにともない、少しでも広い場所へと移転を決め、場所の選定・改装のための協議を進めたほか、スタッフ増員のための求人を行った。

またコロナ禍の中で、仕事がなくなり、食生活にも困っている相談の声が増えたことを受け、積極的に食支援の方向を打ち出した。旧たまりば一畝地を利用して、「コミュニティスペースえんくる」を開設。大型冷凍・冷蔵庫を助成金で購入し、フードバンクや企業からの食料品を集荷して、必要な人々のもとへと手渡すフードパントリー事業を新規開設した。夢パークの所管課とも協議し、夢パークの創作スペースにもえんくると同様の大型冷凍・冷蔵庫を設置。夢パークやフリースペースえんでも、必要な子どもたちや大人たちに、食料の配布を行った。

また不登校の増加と子どもの自死の急増を受け、不登校・ひきこもりの理解のすそ野を広げるために、従来通り隔月の説明会に加え、積極的に理事長西野がオンラインなどで講演を行った。またえんに登録していない保護者を対象とした親の会「たまりば」をコミュニティスペースえんくるなどで開催し、増え続ける相談への対応を行った。また都知事も参加した東京都総合教育会議でのプレゼンや東京都の「児童・生徒フォーラム」(東京都学校・フリースクール等協議会)での基調講演およびシンポジスト、川崎市校長会での講演などを通して、教職員や行政施策担当者、支援者、保護者を対象に不登校の理解促進や多様な学びと公民連携の在り方などの啓発に努めた。

さらに以前より課題であった法人ホームページのリニューアルをはかったほか、たまりばに加え、えんくるのオフィシャルの Facebook、夢パークの Instagram なども開設し、法人活動の広報に努めた。また夢パークの第 4 期指定管理者に応募し、選定された。これにより次期 5 年間も引き続き夢パークの運営を担うことになった。

2. 事業内容

居場所（活動拠点）・事業

- | | | | |
|--|---|--------|-------------------------|
| A) 川崎市子ども夢パーク | } | 指定管理施設 | 指定管理料（分担金）：52,600,000 円 |
| B) フリースペースえん | | | |
| C) 川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」（川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業） | | | 委託費：25,469,000 円 |
| D) 「よつばの会」（川崎市学習支援居場所づくり事業） | | | 委託費：5,838,580 円 |
| E) 「ふれあい心の友」（川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業） | | | 委託費：5,857,900 円 |
| F) コミュニティスペースえんくる・フードパントリーたまりば | | | |
| 1. かわさきを食でつなげる居場所支援事業（全国食支援活動協力会） | | | 助成金：2,489,008 円 |
| 2. 子ども支援団体等緊急支援基金（パブリックリソース財団） | | | 助成金：1,000,000 円 |
| 3. 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン（中央共同募金会） | | | 寄付金：830,000 円 |
| G) その他 | | | |
| 1. 子どもの居場所づくり推進委託事業（神奈川県教育委員会） | | | 委託金：672,000 円 |
| 2. 令和2年度NHK歳末たすけあい配分金（神奈川県共同募金会） | | | 寄付金：970,000 円 |
| 3. かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク [川崎事務局] | | | 補助金：934,725 円 |
| （かながわボランティア活動推進基金21 協働事業） | | | |

(1) 誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営

< A) 川崎市子ども夢パークの管理・運営 >

- ・(公財) 川崎市生涯学習財団と「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」を結成し、指定管理者として川崎市子ども夢パーク（以下 夢パーク）の管理・運営業務を行ない、理事長 西野博之 が夢パーク所長を務めた。副所長二人体制でより安全な施設管理、運営体制を実現した。

夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児・子育て支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所である。これらの実現を目指して、以下の3つを事業の柱として、管理・運営を行なった。

< 夢パークの3本柱 >

- 「子どもの活動拠点」…子どもが自由に安心して集い、自主的及び自発的に活動する拠点
- 「プレーパーク」…土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場
- 「フリースペースえん」…主に学校の中に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち・学ぶ場

< 子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所 >

夢パークでは「子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所」であることを目指して整備してきた。子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに力を入れている。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみよう」を大切にしたいと考えている。そして、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境づくりに力を注いだ。ここでは子どもの「参加」を大切にし、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点づくりをめざした。

- 使いながらつくり続けていく場
- 子どもの自由な遊び、活動がどンドンふくらむ場
- 子どもが自由で安心して居られる場
- 学校以外での育ち、学ぶ場
- 川崎市の子どもネットワークの拠点となる場
- 子どもたちが自分たちで動かしていく場

・開設日時（夢パーク）

2020年4月1日～2021年3月31日

通年（毎月第3火曜日の施設点検日、臨時施設点検日、年末年始を除く） 9:00～21:00

・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク

・総利用者数：53,717人

＜コロナ禍での対応＞

緊急事態宣言下において、子どもへの虐待やDV、子どもの自殺の増加などの懸念から子どもの居場所が不可欠であると考え、担当所管とも協議を重ね、「最後の砦」として夢パークは閉所しないことに決め、開け続けた。

開所し続けるなかで、3密を避けながら子どもたちの『やりたい』を確保するために、子どもたちとスタッフで相談を重ね、利用のルールなどを改変していった。また、子どもたち自身からの声で、コロナ禍でのイベント開催に向けた話し合いが行われるなど、子ども参画の推進を図った。

夢パーク入場の際に来場票（個人用）の記入をお願いし、回収し来場者把握を行った。また、手洗い・マスク着用、検温の声掛け、アルコールの設置など徹底を図った。

プレーパークにおいては、遊具を増設し分散して遊べる工夫や、飲食スペースの拡充をするなど感染対策を講じ、3密を避けた遊び場運営を行った。全天候スポーツ広場においても、同時に利用する人数やボールの貸出しなどに制限を加えるルールを子どもたちと話し合って整備し、感染症拡大防止を目指した。

＜B＞不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」の運営＞

川崎市子ども夢パーク内において、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりを行なった。今年度の特徴としては、小学生の登録者が急増していることがあげられる。

○ 自分で決めるプログラム

決められたカリキュラムはなく、子どもたち一人ひとりが、自分でその日をどのように過ごすかプログラムづくりを決定し一日の活動を行なった。“この指とまれ”方式で、自主企画をたて、仲間を集めて一緒に活動した。

○ 昼食づくり

フードバンクやえんめし自主サークル「あたたかいごはんを食べる会」と連携し、「自分たちで一緒に作って食べる」を大切に、子どもや若者を中心にスタッフやボランティアがサポートしながら、毎日メニューを決め、買い物・野菜の収穫・調理・配膳・片付けなど、毎日30～40人分の昼食づくりを行なった。（1食250円）

・開設日時（フリースペースえん）

2020年4月6日～2021年3月19日

月曜日～金曜日 10:30～18:00 祝日は休み（ただし、火曜日は10:30～14:00）

開設日：203日

特別活動日：11日（自然野外体験、合宿、イベントなど <別紙参照>）

- ・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1 川崎市子ども夢パーク内
- ・対象者：登録制

登録者数（2021年3月31日現在）

	女性	男性	計
小学生	17	28	45
中学生	9	25	34
高校生年齢	15	15	30
19才以上	11	22	33
計	52	90	142

<コロナ禍での対応>

「居場所の確保」のため、緊急事態宣言下でも開室をした。また、宣言解除後も子どもたちと感染症拡大防止の工夫を考え続けた。また、講座やミーティング、保護者会などもオンラインを活用して行なった。

衛生管理を徹底して食事づくりを行い、飛沫防止のシートやつい立を子どもたちと作成したり、使用した食器を毎回煮沸消毒したりするなど、様々な感染予防対策を行った。

えんラインを開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。「えんには行けないが、つながりを持つことができありがたかった」「自分がないところで、いろいろ決まっていくのが不安だったので、ミーティングに参加できてよかった」などの声があった。

< C) 川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」(以下ブリュッケ) の開設・運営 >

川崎市内で生活保護受給世帯等の15歳～29歳で、社会的ひきこもり状態にある若者たちに対し、居場所の提供を中心とした生活支援を行なった。また中小企業家同友会などとも連携して、若者一人ひとりの個性とスキルに応じた就労支援を行なった。ひきこもり状態にあった若者たちが、居場所で「人」と出会い・つながり、つながった仲間たちと様々な「体験」を積み、少しずつ居場所から「地域」へとつながり、その先の就労を含めた自分の生き方を見つけていけるような寄り添い型の支援に努めた。また、そのような支援が地域の中で継続的に展開できるよう環境整備にも注力した。さらに、福祉事務所のケースワーカーを対象とした相談支援にも取り組んだ。

○共食タイム

開設日には、毎日スタッフと若者で協力し、調理、配膳（準備）、食事、片付けまでを行う「共食タイム」を年間を通して実施した。ブリュッケは単身者も増えていて、「一日一食、コンビニ弁当」「料理はしない」「月末には食べ物を買うお金がない」等の食生活が不安定な若者たちが多く、ブリュッケで安価に栄養のある食事を摂れるよう食支援を行った。（実費 250 円）

○フリータイム

「ミーティング」「共食タイム」「グループワーク」以外は、「フリータイム」の時間とし、スタッフや利用者同士で話したり、作業をしたり、パソコンやゲームをしたり、読書をしたり、外でキャッチボールをしたり、スタッフと買い物に行ったりなど、それぞれが過ごしたいように過ごす時間とした。

・開設日時

2020年4月1日～2021年3月31日

月曜日～金曜日 9:30～18:00 (居場所の開設:月・水・金曜日 10:30～17:00)

【開設時間例】

月・水・金曜日:AM 昼食づくり、フリータイム、来所メンバーによるミーティング
共食タイム(「おいしい・うれしい・たのしい」をみんなで!)

PM グループワーク、フリータイム

火・木曜日:アウトリーチを含む予約制の生活・就労相談日、新規ケースの面接・見学日、
福祉事務所ケースワーカー(以下CW)への事業説明及び相談、

CWとのケース打合せ、行政関係機関とのケースカンファレンス、連携・調整会議

・場所:神奈川県川崎市高津区内

・対象者:登録制

年間登録者数 46名(2021.3.31現在)

支援類型別相談支援者内訳(重複あり)	人数
居場所支援	19
就労支援(居場所支援と重複が9名)	22
アウトリーチ支援	15
その他(CWへの相談援助・定着支援・関係機関との連携ケース等)	15

<コロナ禍での対応>

ブリュッケにはひきこもり状態にある若者というだけではなく、家族以外で人間関係の繋がりが少ない若者、単身世帯で孤立している若者、月末にはお金が無く食べることも難しい若者など、複合的な課題を抱えている若者が多く利用しており、そのような若者たちが困った時に気軽に居場所に訪れることができるように、緊急事態宣言下でも一年を通して、居場所は開設し続けた。コロナ対策と一言で言っても課題は多く、居場所の中で行われるコロナ対策が実行できない若者(発達障害の傾向があつてこだわりが強くマスクを付けることができない、過敏でアレルギーがありアルコールに反応してしまう等)がいたり、公共交通機関を利用することに恐怖感を訴える若者がいたりなど、従来通りに居場所へ安心して通うことができない若者が多くいた。居場所に来られない若者たちに対しては、定期的にプログラム予定表が印刷されたハガキを送り、ブリュッケの現況やコロナ対策を行いながら居場所を開設していることを発信し続けた。

夏以降は、居場所に継続的に通って来られる若者と外出不安が強く通えない若者の二極化した状況となり、一年間を通して居場所利用者数は例年に比べると少ない状況となった。通って来る若者に対しては、今まで以上に一人ひとりと関係性を深める時間を持つことができ、若者たちの特性を知る良い機会となった。それは、今後の若者たちの自立に向けて伴走していく上では、私たちにとって大きな収穫だったことは間違いない。

コロナ禍で大きな課題として浮き彫りになったのが、ブリュッケは福祉事務所のケースワーカー(CW)から新規ケースの相談が寄せられて初めて若者対応が可能となる仕組みとなっていて、そのCWがコロナ対策として家庭訪問業務が制限され、そのCWからの新規ケースの相談が少なくなるという状況が生まれたということであった。今後、ブリュッケが「支援が必要な若者に、必要な支援を届ける」には、コロナ禍の状況にあってもCWから相談が寄せられ、そのことに対応できる柔軟な支援体制の構築が急務となる。

< D) 「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業)の開催>

高津区を中心とした川崎市内の生活保護世帯、及び一人親世帯の中学生に対して、学習支援・居場所づくりを行なった。個別の理解度や苦手分野に合わせた個別学習を中心に行ない、学習以外にもサポーターや来ているメンバー同士が交流し関係性を築くことでその後の学習スムーズにつながるよう心掛けた。夏期や高校入試直前には、希望者に対し集中講座・無料の模擬試験を実施した。また、高校進学後も、いつでも相談や自習に来られるように受け入れ態勢を整えた。本事業の趣旨を考え、生活困窮家庭の子どもたちが学習環境を失わないよう、緊急事態宣言下においても事業を実施した。また、コロナ禍で様々な不安を抱えたメンバーや親の相談が多数寄せられ、丁寧に対応した。

・開設日時

2020年4月1日～2021年3月31日

週2日(月曜日・木曜日) 18:30～20:30 祝日は休み

(第1回目の緊急事態宣言下では、15:00～17:00、第2回目の宣言下では17:30～19:30)

開催回数:90回(夏期や高校入試前の集中講座を含む)

・開設場所:川崎市子ども夢パーク内「ミーティングルーム、多目的ホール」

・対象者:登録制

登録者(2021.3.31現在)

	男		女		計
	生活保護	一人親	生活保護	一人親	
1年生	0	0	0	1	1
2年生	2	2	3	1	8
3年生	2	2	0	1	5
計	4	4	3	3	14

< E) 「ふれあい心の友」(川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業)の実施>

川崎市内の児童相談所と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒が、主に大学生が登録している「ふれあい心の友」と児童相談所内で交流し、自主性や社会性の伸長を図ることを目的としている。この事業のうち、フリースペースたまりばは、「ふれあい心の友」登録者と対象となる児童・生徒が一对一で学習をしたり話をしたりする個別活動支援のうち、「ふれあい心の友」の募集・研修・派遣を担当した。また、児童相談所に通ってくる複数名の児童・生徒と一緒にゲームをしたり料理をしたりする集団活動支援のうち、活動内容の企画立案・準備・運営を担当した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大が要因となり、本人・保護者、もしくは児童相談所の判断により、活動が中止となったため例年に比べて大幅に活動回数が減った。

・実施日時

2020年4月1日～2021年3月31日

実施回数:個別活動支援 133回

集団活動支援 23回

研修 12回

・場所:川崎市子ども家庭センター、川崎市中部児童相談所、川崎市北部児童相談所

・対象者:川崎市児童相談所と関わりのある18歳未満の児童・生徒

2020年度利用者数(延べ人数)

	こども家庭センター	中部児童相談所	北部児童相談所	計
個別活動支援	79	17	37	133
集団活動支援	23	7	25	55

< F) コミュニティスペースえんくる・たまりばフードパントリーの運営 >

オーガニックカフェ「たまりばーる」の跡地をコミュニティスペースえんくるとして活動を始めようとした矢先に新型コロナウイルス感染症の拡大となった。そこで、緊急事態宣言、学校の休校を受け、地域の SOS を受け止め、支える「まちのひろば」「まちづくり・地域づくりの拠点」としてまずはフードパントリー事業を開始した。

12月までは物件の改装、(一社)全国食支援活動協力会の助成を受け、大型冷凍冷蔵庫の設置を行った。大型冷凍冷蔵庫は、フードパントリー事業の一環として、川崎市子ども夢パークにも設置した。並行して、かわさきこども食堂ネットワークとの連携を開始し、大口の食料寄付に際しては、市内の各こども食堂への食糧提供を行い、川崎市内の食支援のハブとしての役目も果たした。

1月には、高津市内で活動するこども食堂菜の花ダイニングとの共催イベントを行い、フードパントリー事業を本格始動、開所日には誰にでもいつでも食料を持って帰れる敷居の低い“地域の食料庫”として事業が開始された。

コミュニティスペース事業としては、韓国語講座（緊急事態宣言を受け途中休止）、クローズドの不登校の親の会や、三線講座なども行われ、少しずつ地域に開かれた場としてイベントも始めている。

・実施日時

2020年4月1日～2021年3月31日

週4日（月・水・金・土曜日）18：30～20：30 祝日は休み

・場所：川崎市多摩区宿河原 6-26-24

・利用者数

(1) 菜の花ダイニング・たまりばフードパントリー共催イベント

参加者：大人 29人、こども 4人

(2) 2月・3月来所者・利用者統計

	2月	3月	合計
コミュニティスペース来所者（延べ人数）	37名	51名	88名
フードパントリー利用者（延べ人数）	31名	62名	93名

(3) 食品配布実績

- ・コミュニティスペースえんくるでの配布（3月分のみ） 481点、120kg
- ・こども食堂ネットワークへの食料提供 5か所、20箱（合計732点、231kg）

(2)不登校・引きこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動

①来所相談

- ・内容：不登校、ひきこもり、非行、いじめ、生活上の問題等で悩む本人や家族等の電話相談、事前予約による来所相談を行なった。また「ブリュッケ」では、市内福祉事務所CWとの連携を重視し、複合的な課題を持つ家族への対応も含めたCWの相談やスーパーバイズなど、「CWへの支援」も積極的に行なった。（無料）
- ・相談受付時間：（えん）原則 月曜日～金曜日 10：30～18：00（祝日は休み）

(ブリュッケ) 原則 月曜日～金曜日 10:30～17:00 (祝日は休み)

・相談場所：フリースペースえん、ブリュッケ (アウトリーチ及び来所面接は予約制) 他

②派遣・アウトリーチ相談

- ・内容：「ふれあい心の友」事業では、ふれあい心の友に登録している学生を児童相談所内に派遣し、不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒の相談・援助活動を行なった。また「ブリュッケ」では、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所内等でアウトリーチ相談を行なった。
- ・相談時間：児童相談所や福祉事務所と調整
- ・相談場所：児童相談所 (登録制)、福祉事務所 (登録制) 他

③本人や保護者の相談

○保護者とスタッフの語り合う会

- ・内容：保護者との関わりを大事にするために、また保護者同士がつながってお互いに話ができる様にその時々保護者の困りごとや子どもの様子などを話しあう保護者会を開催した。
- ・日時：毎偶数月
- ・場所：フリースペースえん
- ・対象者：フリースペースえんに登録している子どもの保護者

○不登校の親の会

- ・内容：今年度より、主としてえんの説明会申し込みに入ることができなかつた不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者を対象にそれぞれの抱える悩みを語り合い、「不登校のとらえ方」「子どもの受けとめ方」などを手に入れる会を開催した。
- ・日時：毎奇数月 (原則)
- ・場所：コミュニティスペースえんくる・夢パーク内多目的室
- ・対象者：思春期の子どもや若者をもつ保護者

(3)フリースペースの利用者による自主企画・活動の支援

< A) 川崎市子ども夢パーク >

① プレーパーク

子どもの「やってみよう」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが考え、自分で決めて、実行するプロセスを大事にした。自分の力の限界に挑戦することを通じ、「やったー」「できた」と達成感を手に入れると同時に、安心して失敗できる環境づくりに努めた。自由な発想で自由に遊べる環境を大切にしたい。

② 3大イベント (夢パまつり、こどもゆめ横丁、新春イベント)

コロナ禍のため、夢パまつりはやむを得ず取りやめたが、3密を避けた取組として、夢パークのオープン記念日である7月23日当日に、来所者と夢パークのお誕生日会をささやかに祝った。

こどもゆめ横丁では、YTK(横丁をもっとたのしくしよう会)を中心に子どもたちとスタッフでミーティングを重ねた結果、横丁内の入場制限やお店の大きさ・区画、商品の包装の仕方や渡し方、飲食スペースの限定など感染防止に関する数多くの工夫を凝らし開催することができた。

*当日の様子は年末にテレビ朝日の「スーパーJチャンネル」で、えんの子どもたちが出店したお店の様子が放映された。

新春イベントでは餅つき大会は中止としたが、飛沫が飛ばないような静かな遊び・昔遊びを中心に、自然素材を筆代わりに使った書き初めなども行い、分散して遊べる工夫をしながら開催した。

③ライブイベント

子どもたちが日ごろの音楽活動の成果を発表できる自己実現の場、中高生(利用者)のバンド等音楽をやっている者同士の情報交換や共有の場としての「KUJI ROCK (クジロック)」や「ゆる ROCK」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

「次年度こそは、ライブを開催したい」の開催に向けて、話し合いを行った。

< B) フリースペースえん >

①ミーティング

・内容：安心して過ごせる居場所を自分たちの力で整えていくために、誰もが言いたいことを言える環境づくりに力を注いだ。

○お茶会ミーティング (毎月1回) ○ショートミーティング (毎週月曜日) ○その他 (随時)

②自然体験合宿

・内容：豊かな自然の中で寝食を共にし、子どもたちがプログラムやルールを自分たちで決めながら様々な活動を行なう合宿を開催した。

○夏合宿

・日時：2020年7月29日(水)～30日(木) 1泊2日

(参加者ミーティング7月15日(水))

・場所：黒川野外活動センター

*本年度は恒例の八丈島合宿はキャンプ場の使用ができなかったため、やむを得ず、川崎市内での合宿に切り替えた。

・参加人数：27名

② たまりばフェスティバル2020 ～時は来た！個性のか^{こせい}たまり^{ぼくはつ}爆発ばーん～

・内容：講座や自主企画など一年間を通して行なってきた活動の発表の場として、フェスティバルを開催するために、子どもたちが「プロジェクトX(フェスティバル実行委員会)」を立ち上げ、準備を行なった。そこが中心となって仲間を集め、広報、プログラム・パンフづくり、その他の企画・運営を行なう

・開催日：2021年3月6日(土) 14:00～17:30 (開場13:00)

・場所：川崎市男女共同参画センター すくらむ21

・来場者 218名

*800人入る大ホールを使って、万全の感染対策をとったうえで開催

④自主企画「この指とまれ」 (講座・自然観察・野外体験・イベント等)

・内容：講座や企画は子どもたちが「こんなことやりたい！」という思いをミーティング等で呼びかけし、仲間を募って実現していった。<詳細は別表1参照>

○連続講座 13講座

月1回程度、ものづくりや民族音楽(南米・アフリカ)やダンス、演劇、歌、アート、藍染めなどの表現講座、お菓子づくりやイタリアンパスタ講座などを開催した。

○単発企画 9回

ミーティングなどで子どもたちが提案し、主体的な話し合いによって決定した自主企画や各種イベント等に参加した。

○その他の企画 10種

⑤個別学習支援および進路相談

- ・内容：さまざまな発達段階にある児童・生徒に対する個別またはグループでの学習支援および進路相談を行なった。新しくできた多目的ホールなどを使って、個別に学習する子どもたちが増える傾向にある。
- ・日時：随時
- ・場所：フリースペースえん、川崎市子ども夢パーク内「多目的ルーム」

⑥オンライン（えんらいん）の活用

えんらいん（えんからのオンライン配信）を開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。

< C) ブリュック >

①居場所支援

○ミーティング

開設日には、その日来所したメンバーが集まり、一人一人の「その日の体調」や「最近困っていること」、「今日、みんなで話をしたいこと」などを語り・聴く「ミーティング」を年間を通して実施した。

○グループワーク

居場所開設日の午後には、若者とスタッフで一緒に行う「グループワーク」を年間を通して実施した。プログラムについては、毎月若者とスタッフとで企画会議を開催し、若者たちの興味・関心のあることを企画化し、一カ月の予定を作成した。＜詳細は別表2参照＞

○個別相談

居場所開設時にも必要に応じて適宜スタッフと個別相談できる環境を整えた。若者たちの中には、「家族問題」や「今までの失敗体験」などが原因で動けなくなっていた者も少なくない。本人だけでは抱えきれなくなっている状況を脱するためにも、安心して話せるスタッフに「不安」を語り、背負っているものを降ろしていく中で課題整理をしていく作業は大事であった。

②アウトリーチ支援

「電車など乗り物にのれない」「集団の中は緊張して居られない」「他人とコミュニケーションを取るのが難しい」などの不安はあるが、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所での定期的な面接や、事務所周辺を散歩したり、図書館に行ったりなど、ゆるやかな人間関係を構築するところからアプローチするなどの支援を実施した。

③就労支援

○就労支援の基本

ブリュッケの就労支援には、『居場所での成長を通して、社会的自立・就労に繋げる』・『アウトリーチ支援により、社会的自立・就労に繋げる』の2つのタイプがあり、どちらの支援も「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視して行なった。若者が本来持っている能力を引き出すこと、

自主性を尊重することを基本に、個別のニーズに応じたオーダーメイドのプログラムを作成し、寄り添い型の支援・「人と人を繋ぐ」支援を実施した。

○居場所から就労をめざす若者への支援の取り組み

居場所に通う若者には、居場所での活動による本人の一步一步の歩みと自主性を尊重し、一人ひとりの状況に応じた段階的・的確な就労支援を行なった。ブリュッケの具体例としては、若者たちが居場所に通うことによって心身ともに安定した日々を過ごすようになり、活動の中で少しずつ意欲を取り戻すことで本人の興味・関心が表現されてくる時期がある。その時期に本人たちから「自分ができるような仕事があればやってみたい」という話をしてくるケースが多い。そのタイミングで、自立・就労支援員による本人の就労に関する興味・関心の聴き取り、企業開拓、連携企業の職場体験・見学、企業と本人のマッチング等、就労に向けた取り組みが段階的に展開されていった。

○アウトリーチによる若者への就労支援

アウトリーチで出会う就労希望の若者に関しては、就労支援の全過程（希望職種の選択、求人情報の収集、応募先の選定、履歴書・職務経歴書づくり、面接準備、就労、定着）を本人の働くことへの自覚をつくる過程と捉え、本人の就労とともに社会の中で自立していく力をつける大切な期間として寄り添い型の支援を行なっていた。また、正社員を希望する若者に関しては、「職務経歴書づくり」は特別に重要であり、この作成過程を通じて自分の人生と向き合う機会とした。まだ「何をしたいのかわからない」という若者たちには、「職場見学・職場体験」「お試し就労」など、就労に繋がる支援も定期的に行った。その他にも、資格所得・職業訓練等、スキルアップに向けた支援も行った。若者の職業スキルや社会スキルを向上させるために、ハローワークの職業訓練や受入れ可能な企業・NPO と連携し、職場実習やスキルアップ訓練、各種資格取得に取り組んだ。

○地域の経営者との信頼関係を構築

～「哲学のある経営者」との連携～

ブリュッケを受託後、川崎北税務署「間税会」、神奈川県中小企業家同友会（以下「同友会」）、川崎市商工会議所などの経営者団体及び地元の企業経営者・商店主との交流、連携を継続的に深めてきた。出会った経営者の中には、素晴らしい“経営理念”を掲げ、人材の育成にあたって、ダイバーシティ（性別、人種、障害、年齢、学歴、価値観などの多様性を受入れ、広く人材を活用することで企業改革、生産性の向上に役立てる）の考えを取り入れ、特に「同友会」に関しては、企業理念に「第1に、自社の存在意義を改めて問いなおすとともに、社会的使命感に燃えて事業活動を行い、国民と地域社会からの信頼や期待に高い水準で応えられる企業。第2に、社員の創意や自主性が十分に発揮できる社風と理念が確立され、労使が共に育ちあい、高まりあいの意欲に燃え、活力に満ちた豊かな人間集団としての企業」と謳い実践され、ブリュッケの若者を受け入れてくれている企業も生まれている。

【2020年度就労決定者12名の勤務形態内訳】

正社員	パート：週4～5日	パート：週1～3日
1名	6名	5名

【就労支援希望者21名の活動状況内訳】

職業体験	職場見学	就労体験
5名	13名	3人

④川崎市内福祉事務所の職員（ケースワーカー）への支援

市内9カ所ある福祉事務所をまわり、各福祉事務所のケースワーカー（CW）を対象とした「相談・

交流会」を実施した。ブリュッケの事業説明を行った後、CWが対応に困っているケースについて一緒に考える機会を設けた。また、ひきこもっている若者と家庭訪問時でも出会えず、対応に困っているケースの対策として、CW対象の個別面接相談やスーパーバイズなどを随時行い、「CWへの支援」を積極的に取り組んだ。

<「工房たまりば」>

本年度は、マスクやハンカチなどの藍染め製品の製作、販売を行った。コロナ禍で工房製品の販売の機会にしていたイベントがほとんど中止になったため、例年より製作数、販売数はかなり減ったが、製作時はフリースペースえんの保護者同士の交流の場となっていた。

(4)保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

<広報・啓発活動>

①通信の発行

- ・内容：毎月のカレンダー、活動報告、お知らせ等を掲載した定期情報紙『楽えんだより かわら版』（毎月）と『たまりば通信』（年4回）や、一年間の活動の様子や会員の寄稿を掲載した冊子『楽えんだよりDX』（年1回）を制作、発行した。

夢パーク利用者向けには、共同運営事業体として、『夢パークつうしん』を隔月で発行。

②ホームページ・Facebookの開設と運営

- ・内容：たまりばHPをリニューアルし、活動の予定や報告などを公開し、たまりば会員だけではなく一般の人への広報の場とした。また、フェイスブック等SNSで、日常の様子を広く伝えた。

たまりばHP <https://www.tamariba.org/>

たまりばFB <https://www.facebook.com/tamaribaNPO/>

えんくるFB <https://www.facebook.com/encru.tamariba/>

えんくる公式LINE等

*このほか共同運営事業体として、夢パークのHP・インスタグラムの運営

③フリースペース活動説明会

- ・内容：不登校・ひきこもりに関する理解を促進し、「フリースペースえん」や「川崎市子ども夢パーク」の活動をより身近に感じ、知ってもらうために「フリースペースって、どんなところ？」を開催した。
- ・日時：毎偶数月 *第1~2回は、2回に分けて実施
- ・対象者：不登校児童・生徒の保護者、ひきこもりの当事者、支援機関、学校関係者、研究者、学生等
(本年度は、保護者優先1家族1名で、延べ78名参加)

④講演活動・スタッフ派遣および視察・見学等の受け入れ

- ・不登校・ひきこもりはもとより、子どもや若者たちの学校外での多様な生き方や学び方への理解を深めるために、また居場所のあり方、子どもの権利、遊び、子育てなどをテーマに、市民、教育関係者、行政職員、NPO関係者、学生などを対象に幅広く講演活動を行なった。
- ・一年間を通して、各地から川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえん等への視察・見学を100件受け入れた。
- ・川崎市内の児童相談所(3カ所)で行なう研修の中で、ふれあい心の友の活動を中心にフリースペースたまりばの各事業について、事業紹介を行なった。
- ・遊び場づくりなどを行っている団体へスタッフ派遣をし、子どもの遊び環境の充実を図った。

⑤講演会の開催

- 「子どもの権利ってなあに？」<かわさき子どもの権利の日のつどい事業&ピンクシャツデー>

- ・内容：私たちが普段過ごしている川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえんは「川崎市子ども権利条例」の具現化を目指してつくられた。子どもの権利条例の策定に携わった山田雅太氏を招き、子どもたちと一緒に“子どもの権利”について考える会を開催した。
- ・講師：山田雅太氏（かわさき子ども権利フォーラム代表）
- ・日時：2021年2月24日
- ・会場：フリースペースえん
- ・参加人数：16名

<各種会議やネットワークへの参画・連携>

⑥国・東京都・神奈川県他の施策にかかわる協力・連携

- ・内閣府の研修会で講師を務めた（近畿ブロック）
- ・東京都総合教育会議で講師を務めた 「誰ひとり取り残さない学びの場をめざして」～公設民営「フリースペースえん」の取り組み～
- ・東京都児童・生徒支援フォーラム基調講演・パネルディスカッションのパネラーとして参加
「不登校児童・生徒の社会的自立に向けた公民の連携」
- ・神奈川県青少年問題協議会委員として参加（事務局：神奈川県福祉子どもみらい局みらい部青少年課）
- ・「地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム」で、分科会担当

⑦川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加

- ・かわさき子どもの権利の日事業部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・川崎市社会教育委員会議青少年教育施設専門部会（事務局：川崎市こども未来局）
- ・川崎市ひきこもりネットワーク準備会（事務局：川崎市精神保健福祉センター）
- ・高津区地域教育会議（所管：川崎市教育委員会）
- ・高津区子ども・子育てネットワーク会議（事務局：高津区地域みまもり支援センター）*委員長
- ・川崎市子ども会議（所管：川崎市教育委員会）との連携・協力
- ・高津区防災ネットワーク会議（事務局：高津区役所危機管理担当）
- ・高津区生涯学習推進会議（所管：高津区まちづくり推進部生涯学習支援課）

⑧子どものセーフティーネット構築における関係機関との協働・連携

- ・高津区要保護児童対策地域協議会（事務局：川崎市こども未来局）への参加
- ・川崎市不登校対策連携会議（事務局：川崎市総合教育センター）への参加
- ・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（事務局：神奈川県教育委員会）への参加 *企画委員
- ・川崎市発達障害者支援地域連絡調整会議（事務局：川崎市健康福祉局）への参加
- ・「高津区ボランティア・当事者連絡会」への参加
- ・川崎市校長研修で講師を務めた

⑨民間団体・市民との連携

- ・子どもの声を聴く無料電話相談「かわさきチャイルドライン」との連携協力
- ・「日本冒険遊び場づくり協会」との連携
- ・「フードバンクかながわ」「かわさき子ども食堂ネットワーク」との連携
- ・かわさきかえるプロジェクト（天ぷら油等の廃油を回収・再利用）との協力
- ・「かわさき子どもの権利フォーラム」と連携 *副代表
- ・神奈川子ども未来ファンドとの連携により、いじめ撲滅をめざした「ピンクシャツデー」を開催し、連続講座(3回開催)のコーディネーターを務めた
- ・かながわ生活困窮者支援ネットワークとの連携

- ・水曜パトロールの会（ホームレス支援）との連携
- ・多様な学び実践フォーラムとの連携

<研修・実習等の受け入れ>

フリースペースえん及び川崎市子ども夢パークにおいてボランティアや職員、学生等の体験研修・実習を受け入れた。（一橋大学、首都大学東京、神奈川大学社会教育実習、武蔵大学、武蔵野大学ソーシャルワーク実習、白梅学園大学子ども学部体験実習、横浜桐蔭大学サービスラーニング実習、日本女子大学社会福祉学科フィールドワーク、川崎市保護課実習など）

<かながわ生活困窮者自立支援ネットワークへの参画 >

G-3) かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（幹事団体及び川崎地域事務局）

2017～2019年度まで「かながわボランティア活動推進基金 21 協働事業負担金対象事業（神奈川県福祉部生活援護課との協働事業）」の委託を受けていた「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（任意団体：かなこんネット）」の活動は、2020年度は県生活援護課からの直接の委託事業に移行となり、その幹事団体として年間を通して活動を行った。

※運営体制：【全体事務局】一般社団法人インクルージョンネットかながわ

【川崎地域事務局】認定 NPO 法人フリースペースたまりば

【県西・県央地域事務局】特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

・事業 1：社会資源の広域的開拓

かながわ生活応援サイトに掲載している団体・行政・関係機関（総数 100）に対して、掲載内容の更新の確認とともに、コロナ禍で取り組み始めた支援や、感染予防のための配慮等について主にメールでヒアリングを行い、公開できる情報については、かながわ生活応援サイトに反映させた。かながわ生活応援サイト <https://kana-con.net/>

・事業 2：研修&ネットワーク会議

毎月、県生活援護課とネットワーク幹事団体がオンライン幹事会を開き、一年間の「研修&ネットワーク会議」の企画・運営に関する打合せを行い、研修・報告会を開催した。〈別表 3 参照〉

①2020年11月19日（木） コロナ禍における生活困窮者・困難者の現状～支援の現場を共有する

②2021年1月25日（月） コロナ禍で住まいを失うおそれのある人たちへの支援

③2021年2月25日（木） コロナ禍で仕事を失った人たちへの支援

④2021年3月11日（木） コロナ禍で孤立しがちな人たちへの支援

※2021年2月1日（月） 事例報告会：テーマ「年末年始の相談事例から

(5) 就労支援及び無料職業紹介事業

川崎若者就労自立支援センター・ブリュッケでは、「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視した就労支援及び職業紹介を行なった。

【別表1】

＜フリースペースえん＞

連続講座

講座名	実施回数	内容
平センとものづくり ～作ってあそぼう～	月1回	平林浩さんとブーメラン、花火、編み機等身の回りにあるものを実際に作り、遊んでみることで物のしくみや科学について学んでいる。
俳優・片岡五郎さんの 演劇講座	年6回 (下半期)	「西部警察」「水戸黄門」にも何度も出演している俳優の片岡五郎さんと演劇ワークショップ。殺陣の身のこなしや発声のしかたを学んでいる。
ジャンベをたたこう	月1回	西アフリカの太鼓であるジャンベをコンゴ出身のB.B.モフランさんとたたき、楽譜は使わずに体を使って様々なリズムをきざむ。
フォルクローレを 演奏しよう	月1回	チャランゴ奏者のTOYO 草薙さんとともに、アンデス地方の民族楽器（チャランゴ・ケーナ・サンポーニャなど）をみんなで合わせて演奏をする。
長岡さんのケーナ 講座	月1回	ケーナ奏者の長岡竜介さんに、初級者から上級者までそれぞれのニーズにあわせて、南米のたて笛・ケーナの吹き方を教わる。
ジャズダンス	月1回	ジャズダンススタジオ<アミューズ>を主宰している西崎小恵子さんとともに、自分達の好きな曲に合わせてジャズダンスを踊る。
ボイストレーニング	月1回	西崎小恵子さんとともに、大きな声で歌ったり、歌がうまくなるためのボイストレーニングを行ったりしている。
アート	月1回	有北いく子さんとともに、絵を描くだけでなく、木のつるや和紙を使った作品や、カード・カレンダーなどを作っている。
アッコの パクパクパクン	月1回	自家製の天然酵母パン、各国のお菓子づくりを行なう堤彰子さんと、自分で生地から練って、パンや小麦粉中心のおやつなどを作って食べる。
イタリアンパスタ 講座	月1回	元イタリアンシェフの小林英紀さんといろんなパスタを作る。包丁の持ち方など基本から教えてもらい、料理の楽しさを知る。
歌講座	月1回	川崎を中心に全国で活躍する桜井純恵さんといろんなジャンルの歌をみんなで歌う。
青空美容室	月1回	恵比寿で美容師をしている尾松陽太さんに、髪の毛を切ってもらったり、アレンジをしてもらったりしながら、プロの技に出会う。
ともに生きる	年6回 (下半期)	開発教育協会の方々と、自分達とは異なる文化について知り、学び、そして「ともに生きる」ことについて考えるワークショップ。

単発企画（実施・参加したもの）

実施時期	企画
6月8日	フードロス考えた食事づくり
9月19日	不登校相談会（市教委・県教委・NPOによる連携事業）＜会場：高津市民館＞
10月24日	ロスえんクエントロスコンサート with 長谷川ゼミ ＜会場：多目的ホール＞
12月10日	岡本太郎美術館&生田緑地へ行こう
12月18日	クリスマスパーティー ＜会場：フリースペースえん&多目的ホール＞
2月24日	子どもの権利ってなあに？
3月6日	たまりばフェスティバル ～ 時は来た！個性のかたまり爆発ば～ん～
3月18日	おおそうじ
3月19日	春だ春だパーティー（単立ちの会）

その他の企画

企画	実施回数
おはよう、スタディ！（学習支援）	週2回
ケビンとえんJOY朝英語	週1回（上半期）
きれいにし隊（近隣清掃）	週1回
バースデーパーティー	月1回
畑づくりプロジェクト 大澤昭和さん	通年
着物の着付け、茶道 吉田弘子さん	随時
おやつづくり	随時
藍染め	随時
ものづくり（木工、手芸など） 福峯衆宝さん	随時
東日本大震災のことをみんなで考えよう	毎月11日（平日のみ）

【別表2】

<ブリュッケ>

①就労に関するワーク（講座・職場体験・見学等）

毎月開催	就労支援員による「ワーキングトーク」
単発開催	声優さんという仕事の話：講師 伊藤さん・上月さん（話芸写）
	～日本バンダム級チャンピオン凱旋企画～ ボクサーという仕事の話：講師 古橋岳也（新田ボクシングジム）
	教師という仕事と世界旅行の話：講師 鹿島義之（市立高校教諭）

②コミュニケーション・ソーシャルスキルワーク

【毎月開催】

パソコン講座	「word」「excel」のスキル習得講座（講師：藤崎さん） ※緊急事態宣言時はお休み
サイコロトーク	サイコロの出た目に書かれている題材について、それぞれが語り、みんなで聴き合うワーク。
みんなの音楽	一人一人好きな音楽をユーチューブで選び、プロジェクターで映し出してみんなで観賞する。その音楽と本人の出会いや思い出を語ってもらうワーク。
ゲームの日	若者たちとみんなでやりたいボードゲームやカードゲームを選び、ルールがわかっていないメンバーがゲームを理解できるように説明しながら、ゲームを楽しみます。
映画鑑賞	企画ミーティングでお勧めの映画を出し合い今月の映画を選び、みんなで観賞し、感想を語り合うワーク。

ラフターデ	一人一人がおすすめの「お笑い」映像をユーチューブで選び、プロジェクターで映し出してみんなで観賞する。その「お笑い」のおすすめポイントをプレゼンしてもらい、それをみんなで聴くワーク。
それぞれの名作を語る会	一人一人の人生の中で出会ったアニメ、漫画、映画、ゲームなど、「自分の一番」をみんなの前でプレゼンするワーク。

③体験のワーク

【毎月開催】

誕生日会	誕生月の若者が「食べたいケーキ」を選び、みんなで作ってお祝いをする会
手作業の日	ブリュッケで様々な物づくりを体験
お菓子づくりの日	みなでお菓子づくり体験（いちご大福、草餅等）

【単発講座】

7月	●七夕飾り・短冊づくり
8月	●ブリュッケで映画祭
1月	●新春 書初め
2月	●節分&恵方巻きづくり

④自分発の企画

10月	●川崎水族館「カワスイ」 ●ハロウィンパーティー（ブリュッケ）
12月	●クリスマスパーティー（ブリュッケ）

【別表3】

日時	方法	参加者	内容
①テーマ「コロナ禍における生活困窮者・困難者の現状～支援の現場を共有する」			
11月19日(木) 15:00～17:00	Zoom	56名	<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川県内の生活困窮者支援の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活援護課 ●支援の現場からの報告 <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人インクルージョンネットかながわ 困窮状態に陥った人からの相談の状況、今後の展望 ・寿支援者交流会「路上生活者の方々の状況」 ・特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター 「外国人に降りかかる問題」 ・特定非営利活動法人フリースペースたまりば 「居場所を保障されない子どもたち」 ●参加者による意見交換

②テーマ「コロナ禍で住まいを失うおそれのある人たちへの支援」			
2021年 1月25日(月) 15:00~17:00	Zoom	52名	<ul style="list-style-type: none"> ●住居確保給付金の利用状況と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県福祉子どもみらい局福祉部生活援護課 久保田俊也 ●横浜市の居住支援における行政・事業者等の連携の試み <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市建築局住宅政策課 花田進氏 ●参加者による意見交換
③テーマ「コロナ禍で仕事を失った人たちへの支援」			
2021年 2月25日(木) 15:00~17:00	Zoom	70名	<ul style="list-style-type: none"> ●派遣切り、雇止め、解雇、休業・労働時間短縮などの状況と対処法 <ul style="list-style-type: none"> ・弁護士嶋崎量氏(日本労働弁護団常任幹事、反貧困ネットワークかながわ幹事) ●コロナ禍での雇用、求人、求職活動の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県労働局職業対策課 課長補佐 服部吉泰氏 ・藤沢公共職業安定所 就職支援ナビゲーター 古澤由佳氏 ●参加者による意見交換
④テーマ「コロナ禍で孤立しがちな人たちへの支援」			
2021年 3月11日(木) 15:00~17:00	Zoom	80名	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生の居場所はどうなっているのか <ul style="list-style-type: none"> ・田奈高等学校ぴっかりカフェ・NPO法人パノラマ理事長 石井正宏氏 ●地域の外国にルーツのある子ども・若者たちが集まる居場所はどうなっているのか <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人青丘社・川崎市ふれあい館副理事長 鈴木健氏 ●障がい者や高齢者の施設や居場所などはどうなっているのか <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人訪問の家 理事長 名里晴美氏 ●参加者による意見交換
※事例報告会：テーマ「年末年始の相談事例から」			
2021年 2月1日(月) 16:00~17:30	Zoom	29名	<ul style="list-style-type: none"> ●寿支援者交流会 事務局長 高沢幸男氏 ●寿越冬医療班・医師 越智祥太氏 ●参加者による質疑応答